

リハビリ産業展での公開セミナー

市川治療室 NO.338.2016.09

「リ・ケアジャパン（リハビリ・介護産業展 2016）」が8月2日（火）～4日（木）まで東京ビックサイト東展示ホールで開催されました。

「介護予防・高齢者リハビリ」「認知症予防・対策」「介護用品」「在宅サービス」「介護・高齢者食品」「ウェア」「スポーツ」などのテーマ毎に約700のブースが出展され盛大なイベントでした。

今回から「東京都健康長寿医療センター研究所」も「介護予防」のコーナーで出展の要請を受け参加することになりました。

出展内容は、東京都健康長寿医療センター研究所が展開している「介護予防運動指導員養成講座」の内容とその実践などの紹介をするもので、養成講座の指定業者がその内容を公開セミナーという形式で発表しました。

指定業者である日本鍼灸師会は現在までに32回の講座を開催し、約1100名の修了者を輩出しています。私は日本鍼灸師会の役員として日本各地での介護予防運動指導員養成講座の開催を計画・実行しています。

今年度は既に四国会場が修了し、9月は東京会場で開催中です。

介護予防運動指導員養成講座の受講対象者は、主に医療・介護の専門職であり、具体的には医師・歯科医師・助産師、看護師、准看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、介護福祉士、歯科衛生士、介護支援専門員などです。

その中にあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師も含まれています。

16講座（介護予防概論、介護予防評価学、介護予防統計学、行動科学、リスクマネジメント、高齢者筋力向上トレーニング、転倒予防、失禁予防、高齢者の栄養改善活動、口腔機能向上、認知症予防、うつ・閉じこもり予防など）を31.5時間の時間で学習します。

介護予防＝自立した生活を可能にする要因には、「体力（筋力・バランス力・歩行速度）」「栄養（アルブミン値・ヘモグロビン値・コレステロール値）」「生きがい（趣味や仕事など）」です。

介護予防には、運動のみでは不足です。そのため東京都健康長寿医療センター研究所に登録された介護予防運動指導員の指導は「運動のみ」ではなく、多岐に渡ります。

介護予防は、虚弱高齢者（要介護状態手前のレベル）のみを対象とするのではなく、介護度の重度化を予防することも含まれるためその対象範囲は広いものとなります。